

令和5年度 メディア芸術連携基盤等整備推進事業  
分野別強化事業

マンガ刊本アーカイブセンターの実装と  
所蔵館ネットワークに関する調査研究  
実施報告書

国立大学法人 熊本大学

令和6年2月

## 目次

|  |    |
|--|----|
| 第1章 事業概要 .....                                       | 3  |
| 1.1 事業の目的（全体） .....                                  | 3  |
| 1.2 今年度事業の目的 .....                                   | 4  |
| 1.3 実施体制 .....                                       | 4  |
| 1.4 実施内容 各事業の概要 .....                                | 4  |
| 1.5 実施スケジュール .....                                   | 5  |
| 1.6 会議スケジュール .....                                   | 5  |
| 第2章 成果・課題・評価 .....                                   | 7  |
| 2.1 成果 各事業の成果 .....                                  | 7  |
| 2.1.1 マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査<br>研究 7 |    |
| 2.1.2 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備 .....                       | 7  |
| 2.1.3 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告 .....            | 7  |
| 2.1.4 原画・刊本両事業一体化の準備 .....                           | 8  |
| 2.2 課題 各事業の課題 .....                                  | 8  |
| 2.3 評価 総括と展望 .....                                   | 9  |
| 第3章 実施内容 .....                                       | 10 |
| 3.1 マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査<br>研究 10  |    |
| 3.2 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備 .....                         | 18 |
| 3.3 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告 .....              | 22 |
| 3.4 原画・刊本両事業一体化の準備 .....                             | 23 |
| 3.5 実施会議内容 .....                                     | 24 |
| 付録 広報・広報制作物 .....                                    | 28 |



### 第1章 事業概要

#### 1.1 事業の目的（全体）

本事業は、昨年度から継続する形で、文化庁「令和5年度 メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業」の一環として実施し、マンガの「刊本」（＝単行本・雑誌）のアーカイブに関する拠点及びネットワークを構築するとともに、それぞれの活動を通じて得られた情報・知見・人材を共有・公開する機会を計画的に創出し、統合的かつ体系的な「マンガのアーカイブ」連携基盤整備の推進を目的とする。

マンガ分野では、「研究機関等におけるメディア芸術作品のアーカイブ化」を推進・支援すべく、所蔵情報等の整備を進めるとともに、産・学・館（官）の連携・協力により、分野を横断して課題解決に取り組む。

過年度までの具体的内容としては、マンガの原画と刊本（雑誌・単行本）に対象を分け、それぞれの相談窓口として、前者に関しては、横手市増田まんが美術館を「マンガ原画アーカイブセンター」の担い手として実装するとともに、後者に関しては、熊本大学を「マンガ刊本アーカイブセンター」の将来的な担い手として想定し、統合的かつ体系的な「マンガのアーカイブ」の連携基盤整備を推進してきた。

このように、これまでも原画／刊本両事業は、“車の両輪”として連携し作業を行ってきたが、今年度は、より緊密な共通課題に沿った共同会議を実施し、2023年内の「マンガ刊本アーカイブセンター」設置を前提に、以下のような事業計画を設定した。

①日本のポップカルチャーの象徴であり、メディア芸術の核となるマンガの資料群（原画、刊本）の保存に関して、引き続き、標準的・体系的な方法の確立に向けた調査研究を行う。そのために、全国の所蔵館と情報共有できる体制を整えるべく、原画・刊本のアーカイブに関する相談窓口を設けるとともに、所蔵館連携ネットワークの構築と強化を進める。

②本事業は、将来的なメディア芸術の拠点形成に向けた構想の実現を視野に入れて、マンガに限らず、メディア芸術各分野の先行モデルあるいはケーススタディとなることを想定し、中期的観点から計画を進めている。事業を通じて得られる課題の発見や解決のための情報・知見、そして人材については、ネットワーク間で広く共有するとともに、事業実施プロセス自体を可視化・アーカイブするための調査研究を進める。

③メディア芸術連携基盤等整備推進事業の趣旨に基づき、メディア芸術データベース（ベータ版）において許諾を得られた作品情報や原画・刊本の存在を公開し、広く国内外に向け、「マンガのアーカイブ」を活用した新たな価値創造に関して問題提起するための調査研究を行う。これに際して、作家本人やその関係者、出版社など、とりわけ「産」並びに地方自治体との連携の在り方を綿密に検討する。

なお、マンガ分野（原画・刊本）の合同会議であるマンガアーカイブ協議会の場を設け、事業の更なる合理化へ向けて両事業の合流を目指し、両センターを統合した事業の在り方についても検討する。

## 第1章 事業概要

### 1.2 今年度事業の目的

上記のような目的の下、令和5年度の目的を以下の4点と設定した。

- 1) マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査研究
- 2) 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備
- 3) 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告
- 4) 原画・刊本両事業一体化の準備

### 1.3 実施体制

表 1-1 実施体制

|            |                |  |
|------------|----------------|--|
| コーディネーター   | 鈴木寛之           | 熊本大学大学院人文科学研究部（文学系）准教授                     |
| 統括アドバイザー   | 吉村和真           | 京都精華大学専務理事／マンガ学部教授                         |
| 統括アドバイザー支援 | イトウユウ<br>（伊藤遊） | 京都精華大学マンガ学部特任准教授<br>国際マンガ研究センター            |
| メンバー       | 池川佳宏           | 熊本大学大学院人文科学研究部（文学系）准教授                     |
|            | 日高利泰           | 熊本大学大学院人文科学研究部（文学系）准教授                     |
|            | 橋本 博           | 特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表／合志マンガミュージアム館長 |
|            | 折居佳央里          | 明治大学 米沢嘉博記念図書館                             |
|            | 田中千尋           | 北九州市漫画ミュージアム図書担当                           |
|            | 渡邊朝子           | 京都国際マンガミュージアム学芸室司書                         |

連携機関：北九州市漫画ミュージアム（以下「北九州 MM」）、京都精華大学、京都国際マンガミュージアム（以下「京都 MM」）、高知まんが BASE、国立大学法人熊本大学、少女まんが館、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト（以下「クママン」）、合志マンガミュージアム（以下「合志 MM」）、明治大学 米沢嘉博記念図書館 [50 音順]

### 1.4 実施内容 各事業の概要

#### 1) マンガアーカイブ協議会（6回）

原画事業・刊本事業相互の情報共有及び意見交換を行う。

#### 2) マンガ刊本ネットワーク会議（2回）

マンガ刊本アーカイブセンターが行うべき事業内容の検討（刊本の選書方針と範囲の検討、機関連携による刊本保存・活用計画の立案）、複本利活用事業の在り方、ネットワーク構築に必要な蔵書リストの内容の検討などを行う。合わせて、刊本ネットワーク施設による情報共有及び意見交換、ブロックごとの「刊本プール」の運用の仕方と今後の展望の検討、マンガ刊本アーカイブセンター設置に向けた刊本ネットワークの形成を目的として開催する。

## 第1章 事業概要

### 1.5 実施スケジュール

| 業務項目                            | 実施期間（令和5年4月11日～令和6年2月29日） |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|---------------------------------|---------------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|                                 | 4月                        | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 刊本センターの実装と刊本資料の更なる利活用推進のための調査研究 | ◆                         | ◆  | ◆  | ◆  | ◆  | ◆  | ◆   | ◆   | ◆   | ◆  | ◆  |    |
| 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備              |                           |    |    | ◆  | ◆  | ◆  | ◆   | ◆   | ◆   | ◆  | ◆  |    |
| 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告   |                           |    |    | ◆  | ◆  | ◆  | ◆   | ◆   | ◆   | ◆  | ◆  |    |
| 原画／刊本事業の合同会議開催                  | ◆                         |    | ◆  |    | ◆  |    | ◆   |     | ◆   |    | ◆  |    |

図 1-1 実施スケジュール

### 1.6 会議スケジュール

#### 刊本ネットワーク会議

##### ①第1回マンガ刊本ネットワーク会議

日時：令和5年9月8日（金） 16:00～18:00

開催：オンライン会議（Zoomにて開催）

##### ②第2回マンガ刊本ネットワーク会議

日時：令和5年11月10日（金） 16:30～18:00

開催：オンライン会議（Zoomにて開催）

#### 全体会議（原画・刊本両事業一体化の準備）

##### ③第1回マンガアーカイブ協議会

日時：令和5年4月21日（金） 10:00～11:00

開催：オンライン会議（Zoomにて開催）

##### ④第2回マンガアーカイブ協議会

日時：令和5年6月3日（土） 10:00～12:00

開催：MGAC事務所及びオンライン会議（Zoomにて開催）

## 第1章 事業概要

⑤第3回マンガアーカイブ協議会

日時：令和5年8月8日（火） 14:00～16:00

開催：オンライン会議（Zoomにて開催）

⑥第4回マンガアーカイブ協議会

日時：令和5年10月21日（土） 18:30～21:00

開催：東京都貸し会議室及びオンライン会議（Zoomにて開催）

⑦第5回マンガアーカイブ協議会

日時：令和5年12月2日（土） 15:00～17:30

開催：熊本大学及びオンライン会議（Zoomにて開催）

⑧第6回マンガアーカイブ協議会

日時：令和6年2月1日（木） 17:15～18:00

開催：オンライン会議（Zoomにて開催）

## 第2章 成果・課題・評価

### 2.1 成果 各事業の成果

#### 2.1.1 マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査研究

マンガ刊本アーカイブセンター（Manga Publications Archive Center/略称、以下 MPAC）の令和5（2023）年内設置に向け、運営体制を確定し、マンガ刊本アーカイブの意義について広く発信するための公開シンポジウムの開催、MPACに係る人員の配置を行った。

それらの準備段階を経て、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターホームページ内で、12月11日（月）付けでのセンター開設を告知し、開設後はマンガ刊本に関する相談窓口業務に当たり、1月までに寄せられた3件の相談事項に対応した。

また、刊本資料の更なる利活用推進のために以下の調査研究を実施した。

- ・刊本の利活用に関する有益な情報（図書館必携マンガリスト、郷土作家・作品リスト等）の収集・提供の仕組みづくりについて、くまもと文学・歴史館での調査を実施した。
- ・菊陽町図書館において、刊本資料のアーカイブの仕方に関する細かい調査を行い、各施設の資料保存形式に関する調査研究を実施した。

#### 2.1.2 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備

マンガアーカイブ事業で将来的に必要とされるであろう「刊本ネットワーク所蔵リスト」構築に向けての準備として、以下の事項を実施した。

- ・刊本ネットワークに参加する施設が、それぞれ刊本資料をどのように所蔵しているか確認できる所蔵館リストの構築を目指した調査研究を実施する。
- ・マンガ原画のデータと連動できる機能も備えた所蔵館リストの構築・活用に向けて、メディア芸術データベースをはじめとして、複数の既存データベースの調査を行う。

#### 2.1.3 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告

##### 【協同所蔵リスト作成へ向けて】

協同所蔵リスト作成のために所蔵館が共有で使用できる刊本ネットワーク所蔵リスト（以下刊本データベース）の必要性とその運用体制について検討した。

第1回刊本ネットワーク会議において、刊本データベースは「どこ（所蔵館）に何（刊本）が幾つ（正複などの重要度）あるか」の情報共有を目的とし、雑誌所蔵と雑誌掲載内容から原画情報との連携も進める方針が再確認された。また、既存のメディア芸術データベース（ベータ版）（以下 MADB ベータ版）の目的や役割を踏まえた上で、MADB ベータ版と機能の切り分けを行い、相互に情報連携を行う体制の構築を目指している。

これらを実現するために、MADB ベータ版との連携を前提とした分類、書誌管理項目（メタデータ）のすりあわせについて、サンプルとして北九州市漫画ミュージアム・米沢嘉博記念図書館・京都



国際マンガミュージアムの「単行本」データを例に検討した。

### 【刊本利活用 BOX について】

令和4年度までに開発された「刊本利活用 BOX」（「単行本 新書判・B6判兼用」「単行本 A5判用」「雑誌 B5判用」）については、森野倉庫からの移転作業でも大きく活用された。運搬が簡便である、収納内容や数量の可視化に優れている、積み重ねられ省スペース化が計れるなどの利便性について、10月開催のシンポジウム「マンガ刊本アーカイブセンターの創設に向けて」にて、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表の橋本博氏より報告された。

### 2.1.4 原画・刊本両事業一体化の準備

マンガの原画と刊本は、資料の価値付けや活用方法において表裏一体の関係にある。両者のアーカイブについてそれぞれ調査研究を進めてきた原画／刊本両事業の将来的な合流を目指し、両事業の活動状況を共有し、両者の共通課題を抽出するために全6回の共同会議（マンガアーカイブ協議会）と紙の保存修復に関する合同研修会を実施した。

そのうち、第2回では刊本アーカイブセンター（MPAC）の設置準備（設置意義、業務内容、組織体制に関する協議）、第3回では MPAC 設置シンポジウムの開催日程、場所、内容に関する協議、第4回では MPAC 設置シンポジウムの振り返り、第5回では MPAC の設置直前の最終確認、第6回では今年度取組状況のまとめと、来年度以降の会議における開催の仕方についての協議、MPAC 開設後の相談件数の報告を行った。

## 2.2 課題 各事業の課題

### 1) マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査研究

今年度は MPAC を設置し、人員1名を配置して相談窓口の業務を開始した。今後は活動の広報発信に努めながら相談事例を積み重ねていき、刊本の利活用に関してどのような需要が見込めるのかを、コスト・収支面も重視しつつ追究する必要がある。原画・刊本の両事業が一体化した上で具体的にどのような取組みやイベントが可能となるのかも検討を重ねていきたい。

### 2) 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備

刊本ネットワークに参加する施設が、それぞれ刊本資料をどのように所蔵しているかを確認できる所蔵館リスト構築を目指した調査研究を更に深化させ、所蔵館における個々の刊本資料の相対的価値が可視化できる体制づくりを目指す。

今後はマンガ原画のデータと連動できる機能も備えた所蔵館リストの構築・活用に向けて、具体的にどのような課題が生じ得るかの検討が課題となる。

### 3) 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告

「刊本プール」の事業内での位置付け、これまでの実績と課題について検討を行った。マンガ刊本アーカイブセンター・所蔵館ネットワーク事業全体における正本複本の判断基準は、様々な立場からの視点が必要であり、引き続き要検討課題である。事業全体の「保管」「活用」の検討と同時に、現在の刊本プール（森野倉庫から分散収蔵化した段階）における整理の第一段階としてごく簡易な仕分を実施し、保管すべき資料を迅速に絞り込む作業とその手法のマニュアル化は、今後のアーカイブやネットワーク参加館の参考になり、事業全体にとって有益だと考える。今後、これまでの刊本プールにおける実証実験の結果を総合することで、全国に点在する連携機関や出版社、個人コレクターなどのマンガ刊本を取り扱う対象にとってのより有益な情報を提供できるだろう。

#### 4) 原画・刊本両事業一体化の準備

先行する MGAC に続いて令和 5 年 12 月に開設された「マンガ刊本アーカイブセンター (MPAC)」の活動も今後ますます本格化していくため、マンガアーカイブに関する総合的かつ持続的な取組の支援体制の構築が、間違いなく今後の重要な課題となる。今年度も計画的に実施されてきた「原画／刊本事業の合同会議開催」を更に緊密な形で継続させ、事業の内容と仕組みの両面において、新たなフェーズに向けた具体的な協議と実践が求められる。

### 2.3 評価 総括と展望

今年度の各事業も、計画的な業務項目とスケジュールに基づいておおむね実施されたと評価できるが、特筆すべき今年度の評価対象として、大きく二つの成果が認められる。

第一に、熊本県下における分散収蔵の実施と年度内の完了である。これまで万冊単位でプールしてきた雑誌・単行本を複数の収蔵先に移送したわけだが、それは「言うは易 [やす] く行うは難し」で、過年度までの事業を通じて構築されたネットワークやアーカイブに関する専門人材の育成の蓄積があってこそ可能となった実績であり、実証実験としても高く評価できる。ただし、それだけに、丁寧な検証結果が望まれるところであり、諸作業に関わる今後の詳細な省察とともに、関係者間における貴重なケーススタディとしての共有が求められる。

第二に、12 月の「マンガ刊本アーカイブセンター (MPAC)」の開設である。その実現に向けては、先行する原画アーカイブセンターとの協議を重ねながら、関係者への情報発信を兼ねたシンポジウムを開催するなど、計画的に進めてきた。既に相談窓口には問合せや依頼が入っており、期待された効果を挙げつつあるが、原画事業との更なる連携を視野に、全国的なマンガのアーカイブの底上げを促進するよう、持続的な運営体制の構築に向けた課題析出を進める必要がある。

このほか、関連施設のネットワーク構築に資する所蔵リストやデータベース、雑誌・単行本の整理や保管に便利な「刊本利活用 BOX」など、マンガ刊本アーカイブの基盤整備を進めており、いずれも着実に実績を積み上げている。上記の分散収蔵の実験を介して得られた知見とともに、MPAC の相談窓口を通じ、全国に点在する連携機関や出版社、個人コレクターなどへの本事業の調査結果の発信・応用が今後の課題である。

## 第3章 実施内容

### 3.1 マンガ刊本アーカイブセンターの実装及び刊本資料の更なる利活用推進のための調査研究

#### 【「マンガ刊本アーカイブセンター」構想の全体像について】

本事業においては、先行する原画プロジェクトと対になる形での「マンガ刊本アーカイブセンター」（略称 MPAC=Manga Publications Archive Center）の構想について検討を重ねてきた。

「マンガ刊本アーカイブセンター」（以下 MPAC）に求められる基本的な機能としては以下の四つが想定される。

#### 〔MPAC の機能〕

- ①刊本に関わる諸問題の相談窓口
- ②刊本の取扱いに携わる専門人材の育成
- ③刊本アーカイブネットワークのハブ拠点
- ④刊本の収集、保存、活用（の計画立案）

ここで強調しておかねばならないのは、MPAC それ自体が刊本の収集を直接的に担う主体とはならない点である。飽くまでマンガを多く収蔵する所蔵館（図中では「マンガ関連施設」が主としてこれに相当する）同士をつないでネットワークを構築するためのハブ≒司令塔として MPAC が存在する状況が望ましい。そもそも本事業が「所蔵館連携」を目的に掲げている前提として、既存施設の現場にかかる種々の作業負荷が過大でありマンパワーが全く足りていないという現状がある。そこで、各施設がこれまで単独で行ってきた資料の収集保存について連携を図ればなにがしかの省力化が可能なのではないか、また収蔵庫の狭隘〔きょうあい〕化という問題についても資料の共同運用が問題解決の糸口になるのではないか、というのが発想の根幹にあった。原画・刊本両事業ともに、マンガ文化の今後の発展あるいは継承において重要な資料をきちんと収集・保存していかなければならないという更に大きな究極的な目標はあるが、現在稼働している各施設の持続可能な体制作りという（一見するとやや後ろ向きな）問題もまた重要な課題なのである。しかし、この二つの要求は構造的に対立するものである。完全なアーカイブへ近づこうとすればするほど、膨大な収蔵スペースと整理のための作業人員が必要となり、（予算が無限に増えるわけではないので）現場の負荷は増大する。逆に、新規の資料収集を行わなければ作業負担は減るものの、残すべき資料の散逸は不可避である。こうしたトレードオフ関係はマンガに限らずあらゆる分野のアーカイブが普遍的に抱える問題であるが、我々（日本国内のマンガ関連施設に携わる人間）としては、マンガの原画・刊本という具体的な対象についてどのような妥協点が適切なのかを慎重に見極める責任を有しているとも言える。これらを踏まえた上で、MPAC が刊本の収集・保存に主体的に関わるだけの予算確保が見込めない以上、可能な選択肢は、所蔵館連携の核となるフロント的役割に徹するとなる。

令和4年度の議論では、過年度までの議論で混乱を生じさせていた正本／複本という用語の曖昧な流用を避けるため、「責任保存資料」という概念を仮に提起した。これは刊本アーカイブが理想的に収



### 第3章 実施内容

ンポジウムの構成は下記のとおりである。

#### 開催趣旨

マンガの単行本や雑誌（両者を合わせて「刊本」と呼びます）は、作品の中間生成物である「原画」とは異なり、長らく、複製芸術としてのマンガ作品が公表される最終形態でした。長い歴史を積み重ね、大量に存在している「刊本」は、私たちの日常においてごく身近な存在であり続けてきた経緯もあり、その重要性や価値がまだひろく認識されてはいません。

本シンポジウムの第1部では、原画と同様、日本のマンガ文化を支える貴重な資料として位置付けられるマンガ刊本を保存する意義、これまでの文化庁における刊本のアーカイブに関する事業の成果とそこからみえてくる課題、全国的規模での刊本アーカイブネットワークの必要性について発表します。つづく第2部では、全国的規模での刊本の保存・活用ネットワークの要となる相談窓口「マンガ刊本アーカイブセンター（MPAC）」の役割や機能について説明し、センターに期待される役割や、先行する「マンガ原画アーカイブセンター（MGAC）」との協業に向けての議論を行います。

#### 構成

令和5年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業  
「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」関連シンポジウム  
マンガ刊本アーカイブセンターの創設に向けて

主催：文化庁 / 共催：国立大学法人 熊本大学

日時：令和5年10月21日（土）13:00～16:15

会場：明治大学 駿河台キャンパス 研究棟2階 第9会議室

プログラム：

13:00～14:30 第1部 刊本のアーカイブに関する事業のこれまで

司会 吉村和真（京都精華大学）

趣旨説明・登壇者紹介（司会）

- ① イトウユウ（京都精華大学） ② 森川嘉一郎（明治大学）
- ③ 橋本 博（特定非営利活動法人 クママン）
- ④ 鈴木寛之（熊本大学）

総合討論

14:45～16:15 第2部 刊本アーカイブセンター・刊本ネットワークの未来

司会 鈴木寛之（熊本大学）

趣旨説明・登壇者紹介（司会）

- ① 池川佳宏（熊本大学） ② 加藤泰三（個人研究者）
- ③ 桑尾和志（高知まんがBASE）
- ④ 浅野隆夫（札幌市まちづくり政策局／札幌市中央図書館）

## 第3章 実施内容

### ⑤ 大石 卓 (マンガアーカイブ機構)

#### まとめ

#### 【マンガ刊本アーカイブセンター (MPAC) の開設】

マンガ刊本アーカイブセンター(Manga Publications Archive Center/略称MPAC)の令和5(2023)年内設置に向け、運営体制を確定し、マンガ刊本アーカイブの意義について広く発信するための公開シンポジウムの開催、MPAC 専属の人員の配置を行った (MPAC スタッフは、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター兼務教員 3 名+事務補佐員 1 名の計 4 名から構成される)。

それらの準備段階を経て、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターホームページ内で、12月11日(月)付けでのセンター開設の告知を行い、開設後はマンガ刊本に関する相談窓口業務に当たった。

#### 【マンガ刊本アーカイブセンター (MPAC) 紹介】

以下は、熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターHP内に記載された「MPAC」紹介テキストを再構成したものである。

#### MPAC Manga Publications Archive Center

『マンガ刊本 (=雑誌・単行本) 保存・利活用』の相談窓口

マンガ刊本 (=雑誌・単行本) 保存・利活用の相談お受けします

マンガ刊本アーカイブセンターは、マンガ刊本(雑誌・単行本)保存・活用に関する相談窓口です。個人や自治体、出版社等の相談を受け、刊本の収蔵についてアドバイスや関係機関同士のネットワークづくり、刊本保存利活用のノウハウの提供などを行ってまいります。

※本事業は文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業の一環として行われるものです。

※刊本保存・利活用にお悩みの方の相談を受け付けておりますが、飽くまで相談窓口であり、刊本のお預かり・保管等を確認するものではありませんので、予めご了承ください。

#### \*MPAC のめざすもの

近年はマンガをオンラインで読むことの需要が高まっていますが、長きにわたり、マンガの「刊本」 (=雑誌・単行本) は、作品が公表される最終形態でした。

MPAC は、マンガ関連施設・団体・個人等の全国的なネットワークにより、「これまでに出版された

### 第3章 実施内容

全てのマンガ刊本（雑誌・単行本）を、少なくとも1冊ずつは後世に残す」ことをめざしています。

#### \*業務内容

刊本相談窓口業務

関連施設ネットワーク化

人材育成プログラム

#### \*全国関連施設のネットワーキング

後世に「少なくとも1冊ずつのマンガ刊本（雑誌・単行本）を残す」という目的のため、全国のマンガ関連施設や専門家（刊本ネットワーク構成メンバーに在籍している研究者や学芸員・司書等）とのネットワークを構築していきます。

#### \*「刊本ネットワーク」の構成メンバー

横手市増田まんが美術館

明治大学 米沢嘉博記念図書館

京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム

北九州市漫画ミュージアム

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター

特定非営利活動法人 熊本マンガミュージアムプロジェクト（特定非営利活動法人クママン）

合志マンガミュージアム

高知まんがBASE

少女まんが館

#### \*相談受付の流れ

##### （STEP1）相談受付

相談者による問い合わせフォームの入力、または MPAC 事務局との電話でのお問い合わせで最初の問診票をつくります。

##### （STEP2）カルテ作成

MPAC 事務局が STEP1 の問診票を元に、より具体的なヒアリングを行い、現在の刊本の状態、物量、保管状況、活用の意思等、相談内容を記載したカルテを作成します。

##### （STEP3）MPAC の運営協議会での共有・協議

カルテは、専門家（刊本ネットワーク構成メンバーに在籍している研究者や学芸員・司書等）からなる「MPAC 運営協議会」で共有され、場合によっては、各関連施設や専門機関などにもアドバイスを

### 第3章 実施内容

もらいつつ、相談内容や意向に添った解決策を協議します（相談受付から2週間～最大2ヶ月を要します）。

(STEP4) 共有・協議結果のご返答

\*このようなお悩みはありませんか？

コレクター・ご遺族等

- 自宅にある大量の刊本をどうにかしたい・・・
- 個人で刊本を保存するには・・・
- etc・・・

自治体・図書館・出版社

- 刊本の活用方法を知りたい・・・
- 地域のコミュニティスペースを作りたい・・・
- 選書の仕方を知りたい・・・
- 自社アーカイブを作りたい・・・
- etc・・・

解決法の紹介

- 関係機関への紹介・斡旋  
(刊本の保存・寄贈・譲渡・売却・企画展ほか)
- アーカイブ・利活用に関するノウハウの提供 ほか

\*受付窓口相談受付時間

平日 10:00-17:00 TEL/FAX 096-342-2307

\*受付時間外や文章でのご相談はお問合わせフォームからお願いいたします。

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2-40-1

熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター内  
マンガ刊本アーカイブセンター (MPAC)

#### 【MPAC への相談事例】

12月11日のMPAC開設以降、1月になって下記3件の相談が寄せられた。いずれもカルテ作成後にMPACネットワークに情報を共有した。相談事例1・3は熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターで対応。事例2もネットワーク内で対応見込みである。



### 第3章 実施内容

表 3-1 相談事例 1

| 項目        | 内容  |
|-----------|---|
| 相談者（組織）情報 | ブルガリア ブルガスジャパンセンター  |
| 地域        | ブルガリア（枚方市に窓口あり）   |
| 相談内容      | ブルガスジャパンセンター内閲覧用に、マンガ単行本を寄贈してほしい。   |
| 希望冊数      | 100 冊   |
| 詳細        | <ul style="list-style-type: none"> <li>① センターの趣旨から日本の生活様式がわかるものが望ましいが、人気作品があればうれしい</li> <li>② 対象年齢は子供～高校生、性的表現についての制限はなく、日本の少年少女向けのものであれば OK</li> <li>③ 英語版の単行本もあればうれしい</li> <li>④ 基本、寄贈本は一回枚方市の窓口にて一回受け取ってからブルガリアへ送る段取りになっている</li> <li>⑤ ブルガリアへ大量送付が困難なため、少しずつでも継続的に送ることが望ましい</li> </ul> |

表 3-2 相談事例 2

| 項目        | 内容   |
|-----------|--|
| 相談者（組織）情報 | 京都国際マンガミュージアム  |
| 地域        | 京都   |
| 相談内容      | 館の複本の少年マンガ雑誌を寄贈したい   |
| 冊数        | 75 冊   |
| 詳細        | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1970 年代前半の少年マンガ雑誌</li> <li>② 『週刊少年ジャンプ』多め（別途 excel ファイル参照）</li> </ul> |

表 3-3 相談事例 3

| 項目        | 内容  |
|-----------|---|
| 相談者（組織）情報 | 個人（60 代女性）  |
| 地域        | 千葉県   |
| 相談内容      | 引っ越しに合わせて、所有のマンガ単行本を寄贈したい   |
| 冊数        | 推定 1,500 冊  |
| 詳細        | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保存状態：プラチックケースに入れてレンタル倉庫置き 46 箱、段ボールに入れて自宅置き 7 箱（※画像添付）</li> <li>② 1970～2000 年代発行の単行本を新刊で購入し、そのま</li> </ul> |

### 第3章 実施内容

ま保存したもの

- ③ 少女マンガ7割、少年マンガ3割
- ④ 白泉社、集英社の作品多め、小学館の作品は主に吉田秋生・渡辺多恵子辺りのもの（※作家リスト添付）
- ⑤ 家庭の事情で2月中に引っ越しを予定しており、できれば1月中（引っ越し前）に何らかの形で処分の目途を立てておきたい。

このほか、刊本資料の更なる利活用に関する有益な情報（郷土作家・作品リスト等）の収集・提供の仕組みづくりのために、下記の調査研究を実施した。

#### 【くまもと文学・歴史館 企画展「マンガ県くまもと」】

くまもと文学・歴史館での企画展「マンガ県くまもと」における、刊本資料の活用に関する調査研究を実施した。郷土作家の選定範囲や、展示資料として用いる刊本の選定に関して助言を行い、複本利活用の実験を行った。その結果、郷土作家というくくりで刊本が配置されると発行年代の古い単行本でも若い世代の読者の関心を呼ぶ効果が確認された。

くまもと文学・歴史館 企画展「マンガ県くまもと」

開催期間：令和5（2023）年7月21日（金）～9月25日（月）

主 催：くまもと文学・歴史館、熊本県立図書館

協 力：くまもとマンガ協議会、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト

このイベントでは、熊本県にゆかりのあるマンガ家137名・県内でマンガを活用した取組みを行う24団体が紹介され、50点以上の描きおろし色紙が展示された。開催に伴い、熊本県ゆかりのマンガ1,000冊以上が配架された読書コーナーが設けられた。

以下では、企画展に「協力」として名称がクレジットされている「くまもとマンガ協議会」の概要について記す。「2021年10月に「マンガ県くまもと」推進を目指して、5団体《㈱熊本日日新聞社と国立大学法人熊本大学が共同会長、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト、㈱くまもとDMC、熊本県》の呼びかけに応じた産官学金の有志で設立。設立時は54団体、令和5年7月現在75団体が参加。」「月1回の勉強会を通して、①マンガ・アニメの文化的な視点からの保存・研究、顕彰・発信、②将来の担い手となる人材の育成、③マンガ・アニメによる新たな観光・経済活動の創造と地域の再生・復興、元気づくりの三つの柱を中心にした共同の取組が進められ、活動の輪を広げています。」（くまもと文学・歴史館編集・発行『「マンガ県くまもと」パンフレット』2023年7月 表紙より引用）

このように、県を単位としてマンガ文化を紹介・顕彰していく動きは今後も全国的に増加していくと思われる。

### 【菊陽町図書館でのマンガ刊本配架状況に関する調査】

菊陽町図書館でのマンガ刊本配架に関する調査を行った。同館における配架の特徴は、マンガ作品のテーマごとに、日本十進分類法（NDC）区分でマンガ以外の一般書と合わせて配架している点である。例えば、手塚治虫「ブッダ」は182.2（南伝仏教.南方仏教）、中沢啓治「はだしのゲン」は210.7（昭和・平成時代 1926-）、清水茜「はたらく細胞」は491.1（解剖学）、井上雄彦「リアル」は783.1（バスケットボール）に分類され、それぞれの棚に配架されている。来館者は、目当てのマンガ作品と併せて関連書籍に触れられる形となっているため、このような配架の持つ可能性について引き続き調査研究を行い、公共図書館におけるマンガ刊本活用の事例蓄積の一例とした。

## 3.2 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備

### 【協同所蔵リスト作成へ向けての課題】

令和4年度までの刊本事業において、協同所蔵リスト作成のために所蔵館が共有で使用できる刊本ネットワーク所蔵リスト（以下、刊本データベース）の必要性とその運用体制について、第1回刊本ネットワーク会議で検討を行った。

第1回刊本ネットワーク会議において、刊本データベースは「どこ（所蔵館）に何（刊本）が幾つ（正複などの重要度）あるか」の情報共有を目的とし、雑誌所蔵と雑誌掲載内容から原画情報との連携も進める方針が再確認された。また、既存のメディア芸術データベース（ベータ版）（以下MADBベータ版）の目的や役割を踏まえた上で、MADBベータ版と機能の切り分けを行い、相互に情報連携を行う体制の構築を目指している。

刊本データベースに求められる機能の切り分けの具体例として、「所蔵館の任意のタイミングで自館の情報を更新できる機能」や「登録データの公開範囲をログインしている所蔵館の間のみで情報共有する機能」等があり、MADBベータ版との目的の相違点から、MADBベータ版による「新規の刊行物のデータ投入」と、刊本データベースを介した「過去遡及に当たるデータ投入」が役割分担され、データの相互補完を行う方向性を改めて提案・共有した。

これらを実現するために、MADBベータ版との連携を前提とした分類、書誌管理項目（メタデータ）のすりあわせについて、サンプルとして北九州市漫画ミュージアム・米沢嘉博記念図書館・京都国際マンガミュージアムの「単行本」データを例に検討を事前に行い、第1回刊本ネットワーク会議で報告と下記の提案を行った。

#### ・「分類」の検討案

MADBベータ版では「マンガ単行本」「マンガ雑誌単号」「マンガその他」の3種類の分類と「マンガ雑誌単号」上位の「マンガ雑誌」（雑誌の種類に関するメタデータ）があり、3館それぞれのメタデータの分類とほぼ同様である。刊本についてはメタデータによる書誌の同定がとれる（統合した際に正複が確認できる）ものを「マンガ単行本」と「マンガ雑誌単号」に仕分して所蔵リストに登録し、

### 第3章 実施内容

それ以外を「その他」とすると提案した。「単行本」は ISBN の有無を判断基準とするなどそれぞれの分類法や、例えば2冊組の本の場合は何を1単位とするかについて、所蔵館の類似点・相違点の検討が今後も必要である。

#### ・刊本に必要な書誌管理項目（メタデータ）の検討案

3館の「単行本」のメタデータを比較し、おおまかに共通するカテゴリでの統合・分割を検討した（表3-2）。このうち、書誌の同定に必要な「ISBN」「タイトル」「巻次（巻次番号）」「出版者」「レーベル」「初版発行日」をメタデータ項目として共通化・入力の一斉化のキー（必須項目）として提案した。

#### ・「書誌」と「館での管理情報」の区分案

刊本に必要な「書誌管理項目」のうち、どの館が書誌をとっても同じになる「書誌としての共通部分」と、同じ刊本でも版や刷が異なる場合やキズなどの状態の違いといった「書誌中の館の独自情報」を区別し、後者の情報を書誌とは違うものとして管理し、刊本データベースに登録して情報共有すると提案した。また、出納情報など「その館での管理情報」は不要のため刊本データベースには投入しない方針についても確認した（ただしその館での所蔵番号となるIDのみ登録し、館での所蔵を特定できるようにする）。

上記は、刊本ネットワーク会議の上で事例をサンプルとしてわかりやすく議題を共有することが大きな目的であり、「単行本」以外のメタデータやほかの所蔵館についての検討や提案についても継続して検討を重ねた上で刊本データベースのメタデータ設計とする。

### 第3章 実施内容

表 3-4 3 館の単行本メタデータ比較と書誌の区分案

| 単行本            | 北九州市漫画ミュージアム  | 明治大学<br>米沢嘉博記念図書館 | 京都国際<br>マンガミュージアム | 書誌の同定で必要な情報    |
|----------------|---------------|-------------------|-------------------|----------------|
| ISBN           | I S B N       | ISBN              | ISBN              | ★              |
| 書名に関する情報       | 書名            | タイトル              | タイトル              | ★              |
|                | 書名ヨミ          | タイトル(ゆれ)          | タイトルよみ            |                |
|                | 副書名           | タイトル(よみ)          | 各巻書名              |                |
|                | 副書名ヨミ         | サブタイトル            |                   |                |
|                | 原書名           | 異版名               | 版表示               |                |
| 巻次に関する情報       | 巻次            | 巻                 | 巻次                | ★              |
|                | 巻次(序数)        | 巻ソート              | 巻次番号              | ★              |
|                | 巻次ヨミ          |                   |                   |                |
| 著者に関する情報       | 著者名           | 作者                | 著者名               |                |
|                | 著者ヨミ          | 原作                | 著者役割              |                |
|                |               | 作者(よみ)            | 著者標目              |                |
|                |               | その他               | 著者名よみ             |                |
|                |               | 原作(よみ)            | 著者典拠ID            |                |
|                | その他(よみ)       |                   |                   |                |
| 出版社・レーベルに関する情報 | 出版者           | 発行元               | 出版者               | ★              |
|                | 出版者ヨミ         | 発行元(よみ)           |                   |                |
|                |               | 発売元               |                   | ★              |
|                |               | 発売元(よみ)           |                   |                |
|                | 叢書名           | シリーズレーベル          | 叢書名               | ★              |
|                | 叢書名ヨミ         | シリーズ番号            |                   |                |
|                | 全集・選集(上位)タイトル |                   |                   |                |
|                | 全集・選集タイトル巻号   |                   |                   |                |
| その他の情報         |               | 発行地               | 出版地               |                |
|                |               |                   | 出版国・地域            |                |
|                | 原書の言語         | 言語区分              | 言語                |                |
|                |               |                   | 原著出版国・地域          |                |
|                |               |                   | 和洋区分              |                |
|                | 大きさ           | 判型                | 形態事項              |                |
|                | ページ数          | 形態                |                   |                |
|                |               | 値段                |                   |                |
|                | 一般注記          | 備考                | 注記                |                |
|                |               | 雑誌コード             |                   |                |
|                | 一般件名          |                   |                   |                |
|                | 一般件名ヨミ        |                   |                   |                |
|                | 内容            | 成年マーク             |                   |                |
|                | 内容(詳細)        |                   | 内容細目              |                |
|                | 目次            |                   |                   |                |
| NDC9版          | 資料種別          | 資料形態              |                   |                |
| 補助件名           |               | その他の検索ワード         |                   |                |
| 出版年            | 初版発行日         | 出版年月日             | ★                 |                |
| 書誌の中の館の独自情報    |               | 発行日               |                   |                |
|                |               | 発売日               |                   |                |
|                |               | 版数                |                   |                |
|                |               | 刷数                |                   |                |
|                |               | 資料状態              |                   |                |
|                | 資料状態備考        |                   |                   |                |
| 館での管理情報        | 資料コード         | 登録番号              | 図書管理ID            | ←ここまで書誌登録情報に含む |

### 第3章 実施内容

表 3-5 3 館の単行本メタデータ比較と書誌の区分案 (前表続き)

|  | 書誌番号        | ステータス  | 資料ID                 | ←これより下は投入対象としない |
|--|-------------|--------|----------------------|-----------------|
|  | 資料識別子デコード   | 資料取扱区分 | 資産管理ID               |                 |
|  | 登録日         | 所蔵場所   | 受入日                  |                 |
|  | 登録時刻        | ソートキー  | 受入先                  |                 |
|  | 登録オペレータID   | 単雑区分   | 寄贈者名                 |                 |
|  | 最終更新日       | コピー可否  | 予算区分                 |                 |
|  | 最終更新時刻      | データ追加日 | 受入金額                 |                 |
|  | 最終更新オペレータID | シール    | 所蔵先                  |                 |
|  | 受入価格        | 書架番号   | 閲覧区分                 |                 |
|  |             | 寄贈者名   | 配架場所                 |                 |
|  |             | 箱番号    | 請求記号                 |                 |
|  |             |        | 管理レベル                |                 |
|  |             |        | OPAC公開フラグ            |                 |
|  |             |        | 受入理由                 |                 |
|  |             |        | 資料状態                 |                 |
|  |             |        | 所蔵注記 [非公開]           |                 |
|  |             |        | 所蔵注記 [公開]            |                 |
|  |             |        | 紛失日                  |                 |
|  |             |        | 紛失回数                 |                 |
|  |             |        | 紛失備考                 |                 |
|  |             |        | 除籍日                  |                 |
|  |             |        | 除籍理由                 |                 |
|  |             |        | 除籍備考                 |                 |
|  |             |        | 登録日 (所蔵)             |                 |
|  |             |        | 更新日 (所蔵)             |                 |
|  |             |        | 付録フラグ                |                 |
|  |             |        | 付録情報:図書管理ID/雑誌巻号管理ID |                 |
|  |             |        | 関連URL                |                 |
|  |             |        | 画像:URL               |                 |
|  |             |        | 画像:ステータス             |                 |
|  |             |        | 画像:ファイル形式            |                 |
|  |             |        | 画像:注記                |                 |
|  |             |        | データ作成元ID             |                 |
|  |             |        | 登録日 (書誌)             |                 |
|  |             |        | 更新日 (書誌)             |                 |

#### 【今後の連携機関について】

刊本データベースの運用については、メンバーシップ案として、現在の刊本ネットワークの内部で「レギュラーメンバー」と「ゲストメンバー」への分類が想定されている。

「レギュラーメンバー」は現在の刊本アーカイブセンターの運営協議会メンバー（所蔵館）の位置付けと想定し、刊本アーカイブセンターの指示の下で所蔵館スタッフがログインして、所蔵データの投入から書誌の同定などの作業を行うと想定している。「レギュラーメンバー」に対しては、作業経費負担のほかデータ投入時のマッピング（整形不要での自動投入）機能などのメリットを提案する。また、「ゲストメンバー」については公共図書館や自治体、個人の収集家などを対象とし、刊本データベースへログインして閲覧・情報共有やデータの出力を可能にすると提案する。メンバーシップの定義の詳細も含めて、刊本ネットワークの広がりに合わせて刊本データベースの運用体制の詳細を継続して検討する。

#### 【刊本利活用 BOX について】

令和4年度までに開発された「刊本利活用 BOX」（「単行本 新書判・B6判兼用」「単行本 A5判用」「雑誌 B5判用」）については、森野倉庫からの移転作業でも大きく活用された。運搬が簡便である、収納内容や数量の可視化に優れている、積み重ねて省スペース化が計れるなどの利便性について、前述のシンポジウム「マンガ刊本アーカイブセンターの創設に向けて」にて、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表の橋本博氏より報告された。

### 3.3 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験と検証結果の報告

#### 【森野倉庫からの資料の移転】

これまで刊本プールとして使用してきた森野倉庫（熊本市中央区出水7丁目）が、貸主側の事情で令和5年6月末をもって使用できなくなったため、7月以降、同倉庫に収蔵されていた約18万点の資料は、熊本県内の自治体・企業等の協力を得て主として以下の6箇所分散保管されることになった。

- 1,旧 阪野下宿（熊本市中央区黒髪5丁目） 雑誌資料
- 2,旧 松尾西小（熊本市西区松尾町） ※令和5年度末までの利用 B6判単行本
- 3,熊本大学（文学部棟 4階研究室・文学部附属国際マンガ学教育研究センター）  
海外資料・研究書
- 4,鹿帰瀬事務所 2階 芝興産 事務所（熊本市東区鹿帰瀬町 熊本木材工業団地内）  
ビンテージ資料（赤本・貸本・初期新書ほか）
- 5,旧 矢護川小（菊池郡大津町矢護川） 単行本セット
- 6,山の都サテライトオフィス白糸（旧 白糸第一小）（上益城郡山都町新小）  
新書判（少年・少女向け）単行本・A5判単行本

#### 【雑誌の整理】

森野倉庫に保管されていた雑誌群については、その大半が正複チェックを行い雑誌保管で活用している熊本大学付近の阪野下宿へと分散保管されたが、『週刊少年サンデー』『週刊少年マガジン』『週刊少年マガジン』『週刊少年チャンピオン』『コロコロコミック』については正複のチェックを含めて未整理のため、継続して整理を実施した。

令和5年度については『コロコロコミック』と『週刊少年チャンピオン』の整理を実施した。実施手順は令和4年度報告の『週刊少年ジャンプ』の事例と同様で、『コロコロコミック』は正本362冊・複本114冊、『週刊少年チャンピオン』は正本367冊、複本24冊が確認された。整理後の『週刊少年チャンピオン』については、一部を2024年2月9日より開催される「板垣恵介展」に提供し、閲覧活用がなされた。



図 3-2 「コロコロコミック」整理



図 3-3 「少年チャンピオン」整理

### 3.4 原画・刊本両事業一体化の準備

マンガの原画と刊本は、資料の価値付けや活用方法において表裏一体の関係にある。両者のアーカイブについてそれぞれ調査研究を進めてきた原画／刊本両事業の将来的な合流を目指し、両事業の活動状況を共有し、両者の共通課題を抽出するため以下の全6回の共同会議(マンガアーカイブ協議会)と合同研修会(2月)を実施した。

- 第1回 4月(オンライン会議)
- 第2回 6月(MGAC事務所、オンライン会議)
- 第3回 8月(オンライン会議)
- 第4回 10月(東京都／貸し会議室・オンライン会議)
- 第5回 12月(熊本大学、オンライン会議)
- 第6回 2月(オンライン会議)

第2回では刊本アーカイブセンター(MPAC)の設置準備(設置意義、業務内容、組織体制に関する協議)、第3回ではMPAC設置シンポジウムの開催日程、場所、内容に関する協議、第4回ではMPAC設置シンポジウムの振り返り、第5回ではMPACの設置直前の最終確認、第5回では今年度取組状況のまとめと、今後の会議における開催の仕方についての協議、第6回ではMPAC開設後の



相談件数の報告等を行った。

#### 3.5 実施会議内容

##### 【マンガ刊本ネットワーク会議】

第1回 令和5（2023）年9月8日（金） 16:00～18:00 オンライン会議（Zoomにて開催）

マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究について、協議決定を行った。

##### ①参加者の紹介

##### ②議事

- ・マンガ刊本アーカイブセンターの実装に向けた調査研究報告
- ・刊本事業で将来的に必要とされるデータベースについて

##### ③報告

- ・刊本AC（MPAC）設置シンポジウム（10/21）に関する情報共有

##### ④その他事務連絡

参加者：吉村和真、イトウユウ、鈴木寛之、池川佳宏、日高利泰、橋本 博、田中千尋、  
折居佳央里、渡邊朝子、大石 卓

オブザーバー：＜明治大学 現代マンガ図書館＞信濃 潔

＜文化庁＞毛利哲哉、牛嶋興平

＜メディア芸術コンソーシアムJV事務局＞池田敬二、藤本真之介、  
横江愛希子、青木蘭

第2回 令和5（2023）年11月10日（金） 16:30～18:00 オンライン会議（Zoomにて開催）

MPAC 創設シンポジウムの報告、MPAC 実装化などの協議を行った。

##### ①議事

- ・マンガ刊本アーカイブセンターの実装に向けた調査研究について
- ・刊本アーカイブネットワークのメンバーシップについて
- ・その他

##### ②報告

- ・今後のスケジュールについて

参加者：吉村和真、イトウユウ、鈴木寛之、池川佳宏、日高利泰、橋本 博、田中千尋、  
折居佳央里、渡邊朝子、桑尾和志、大井夏代

オブザーバー：＜高知県文化国際課 まんが王国土佐室＞松本理砂、中平花

＜明治大学 現代マンガ図書館＞信濃 潔

### 第3章 実施内容

<文化庁> 椎名ゆかり、毛利哲哉

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局> 池田敬二、岡部玲奈、  
藤本真之介、横江愛希子

原画・刊本両事業一体化の準備

【マンガアーカイブ協議会】

第1回 令和5年4月21日（金）10:00～11:00（オンライン会議）

①今年度マンガ両事業概要について

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

②年間スケジュールについて

- ・合同会議年間スケジュール予定の共有
- ・第2回会議の日程について（秋田開催予定）

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー： 池川佳宏

<文化庁> 吉井淳、椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局>

池田敬二、藤本真之介、佐原一江、横江愛希子

第2回 令和5年6月3日（土）10:00～12:00（MGAC事務所、オンライン会議）

① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

②刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・刊本アーカイブセンターについて（設置意義、業務内容、組織体制ほか）
- ・設置に関する進捗状況の共有
- ・設置準備に関する課題共有
- ・今後のスケジュールについて

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、ヤマダトモコ\*

オブザーバー： <文化庁> 吉井淳\*、椎名ゆかり\*、毛利哲哉\*、牛嶋興平\*

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局>

森由紀\*、池田敬二\*、藤本真之介、佐原一江\*

### 第3章 実施内容

\*印はオンライン参加

#### 第3回 令和5年8月8日(火) 14:00~16:00 (オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・刊本 AC 設置シンポジウム(仮)の開催について  
開催日程、開催場所、内容についての協議
- ・今後のスケジュールについて

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー： <文化庁> 牛嶋興平

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局> 森由紀、池田敬二、  
藤本真之介、佐原一江、横江愛希子、沼田智子

#### 第4回 令和5年10月21日(土) 18:30~21:00 (東京都/貸し会議室・オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・AC 設置シンポジウム開催についての振り返り
- ・AC 設立に向けたスケジュール共有(12月設立)  
今後のスケジュール、組織体制などの詳細の確認

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー： <文化庁> 毛利哲哉、牛嶋興平

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局>

池田敬二\*、藤本真之介、横江愛希子

\*印はオンライン参加

### 第3章 実施内容

#### 第5回 令和5年12月2日(土) 15:00~17:30(熊本大学、オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 「マンガ刊本アーカイブセンター(MPAC)の設置準備について」

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー： 池川佳宏、橋本博、日高利泰、トジラカーン・マシマ

＜文化庁＞ 椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平

＜メディア芸術コンソーシアムJV事務局＞

池田敬二\*、藤本真之介、横江愛希子

\*印はオンライン参加

#### 第6回 令和6年2月1日(木) 17:15~18:00(オンライン会議)

##### ①今年度取組状況報告

- ・協議会開催(全6回)、MPAC開設後の相談件数報告ほか

##### ②来年度以降の会議体の開催について

- ・原画刊本との合同会議の開催について
- ・開催スケジュール

参加者： 吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー： <文化庁> 毛利哲哉、牛嶋興平

<メディア芸術コンソーシアムJV事務局>

森由紀、池田敬二、岡部玲奈、

藤本真之介、佐原一江、横江 愛希子

## 付録 広報・広報制作物

### 広報資料

令和5年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業  
「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」  
関連シンポジウム

マンガ刊本アーカイブセンターの創設に向けて

主催：文化庁 / 共催：国立大学法人 熊本大学

日時：令和5年10月21日（土）13:00～16:15

 文化庁  
令和5年度 文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業  
「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」関連シンポジウム

# マンガ刊本 アーカイブセンター の創設に向けて



### 第1部 13:00～14:30

#### 刊本のアーカイブに関する事業のこれまで

司会 吉村和真 (京都精華大学)  
●趣旨説明・登壇者紹介  
イトウユウ (京都精華大学)  
森川嘉一郎 (明治大学)  
橋本博 (NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト)  
鈴木寛之 (熊本大学)  
●総合討論

### 第2部 14:45～16:15

#### 刊本アーカイブセンター・刊本ネットワークの未来

司会 鈴木寛之 (熊本大学)  
●趣旨説明・登壇者紹介  
池川佳宏 (熊本大学)  
加藤泰三 (個人研究者)  
桑尾和志 (高知まんがBASE)  
浅野隆夫 (札幌市まちづくり政策局/札幌市中央図書館)  
大石卓 (マンガアーカイブ機構)  
●まとめ

マンガの単行本や雑誌（両者を合わせて「刊本」と呼びます）は、作品の中間生成物である「原画」とは異なり、長らく、複製芸術としてのマンガ作品が公表される最終形態でした。長い歴史を積み重ね、大量に存在している「刊本」は、私たちの日常においてごく身近な存在であり続けてきたこともあり、その重要性や価値がまだひろく認識されてはいません。

本シンポジウムの第1部では、原画と同様、日本のマンガ文化を支える貴重な資料として位置づけられるマンガ刊本を保存する意義、これまでの文化庁における刊本のアーカイブに関する事業の成果とそこからみえてくる課題、全国的規模での刊本アーカイブネットワークの必要性について発表します。つづく第2部では、全国的規模での刊本の保存・活用ネットワークの要となる相談窓口「マンガ刊本アーカイブセンター（MPAC）」の役割や機能について説明し、センターに期待される役割や、先行する「マンガ原画アーカイブセンター（MGAC）」との協業に向けての議論を行います。



研究棟 (2階)  
山崎ホール  
明治大学  
神保町駅  
神保町

令和5年  
日 10.21  
時 13:00～16:15

入場無料  
先着80名

主催：文化庁 / 共催：国立大学法人熊本大学  
会場：明治大学 駿河台キャンパス 研究棟2階 第9会議室  
(リハビリタワー裏 「明治大学 子どものこころクリニック」と同じ建物)  
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1  
内容に関するお問合せ先：熊本大学文学部附属 国際マンガ学教育研究センター  
TEL 096-342-2306 E-mail mangarc@kumamoto-u.ac.jp

令和5年10月21日開催「マンガ刊本アーカイブセンターの創設に向けて」シンポジウム  
橋本博氏報告「熊本（森野倉庫）刊本プールでの実証実験」より抜粋  
森野倉庫での作業を通じて得られた知見①～③

## 作業を通じて得られた知見

### 知見① 刊本分類整理作業

- ・ 寄贈など状態の「未整理物の塊」からの分類
- ・ 寄贈された膨大な資料の塊を分類整理していくための区分法。  
寄贈資料は未整理のマンガ刊本以外のものが含まれている場合も多く、  
物量をさばくためにはいったんのおおまかな分類が必要。
- ・ この分類をまず行うことで、全体の把握とその後の作業の分散化・  
効率化をはかることができる。

### 知見② 収納用の特注箱製作

#### ■刊本利活用BOX

刊本を収納するために特別に製作された  
3種のダンボール箱

#### 特徴

- ①箱のサイズと本のサイズを合わせてあるので  
収納や一時的な保存が楽。  
内容が一目でわかる(可視化)
- ②そのまま10段程度積み重ねることができるので  
スペースを節約できる。そのまま本棚としても  
使える。
- ③箱ごとの収納数(約20～30冊)がわかっているので  
箱数を数えれば全体の総量がすぐに計算できる。





「単行本 新書判・B6判兼用」  
約20~30冊を収納

外寸 縦23.8×幅48.5×奥行13.8  
内寸 縦19.8×幅44.5×奥行12.8



「単行本 A5判用」  
外寸 縦27.0×幅53.0×奥行15.0  
内寸 縦24.0×幅49.0×奥行14.0



「雑誌・単行本 B5判用」  
外寸 縦33.0×幅48.5×奥行19.5  
内寸 縦29.0×幅44.5×奥行18.5

## ■平箱

一般的に販売されているダンボールは底が深く、本の運搬や収納にはやや不向き

刊本の運搬や収蔵(長期間の保存)のために計算された、底が浅く取り回しのしやすい  
30cm×45cm×高さ20cmのダンボール箱(通称平箱)  
おおよそ単行本50~70冊を収納

### 特徴

- ①試行錯誤の上考え出された大きさの箱で、様々なサイズの本が無駄なく収蔵できる。
- ②力が弱い人でも運べるほどの適度な重さで隙間なく詰めれば7段まで積み上げられる。
- ③箱のサイズを統一することで収蔵スペースを無駄なく安定して使うことができる。



## 知見③ 正本抜き出し作業と複本の利活用

倉庫内での保管・アーカイブ用に抜き出された本を「正本」、それ以外のダブリ本を「複本」と称し、正本を抜き出す作業を「正複チェック」という。正本はアーカイブ用に一冊だけ保存しておく。ただし状態がいいものが見つかったら随時入れ替えも行う。

正本

アーカイブ用に抜き出された1冊の本  
→ 正本棚へ

複本

正本に選ばれなかったダブリ本  
→ 刊本プールへ

チェックの基準

- 正復の判断はクママン管理本の中で行う（他施設に在庫があるかは考慮しない）
- バージョン違い（表紙裏表紙背表紙の違い、掲載作品の差し換え）は別アイテム
- 帯付き、口絵付き、版数表示、コンディションの違いを考慮

雑誌の正複チェックの例（朝日ソノラマ『マンガ少年』全号）



一番上の段にきれいな正本を残し、重複する複本を二段目以下に配置して、いったんすべて並べてみる  
→ 可視化しての整理



単行本は分類別に配架して実施

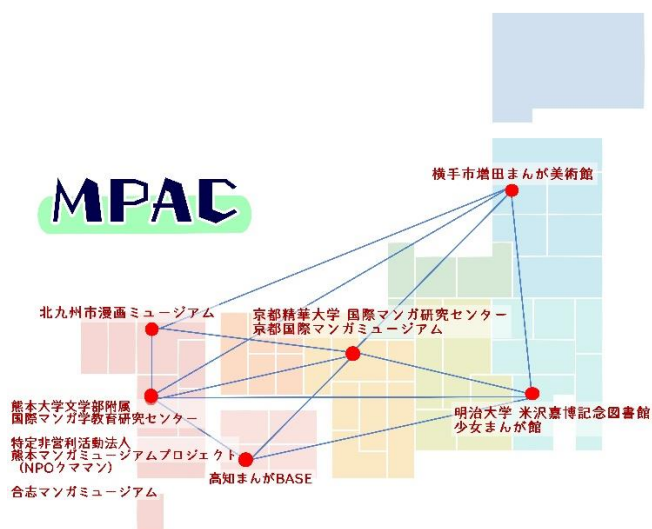




熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センターHP 使用画像



マンガ刊本アーカイブセンター（MPAC）相談受付窓口  
（令和5年12月11日開設）



全国関連施設のネットワーキング  
開始予定)



MPAC ロゴ（令和6年度より使用

本報告書は、文化庁の委託業務として、大日本印刷株式会社が実施した令和5年度「メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。  
転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。